

大滝ダム広報活動について ～ダム管理、役割を理解いただくために～

長坂 健

近畿地方整備局 大和川河川事務所 調査課 (〒583-0001大阪府藤井寺市市川北3-8-33)

近畿地方整備局においては、「魅せる現場」¹⁾に代表されるように安全、安心を確保し、生活を豊かにするための社会資本整備について、広報活動を展開しているところである。
本稿では、大滝ダムの広報における管理ダムへ移行向け工夫した点、の2013年に実施した内容について紹介する。

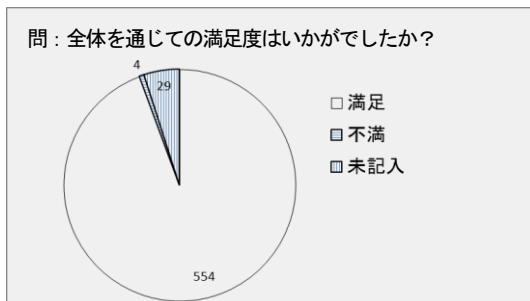
キーワード 大滝ダム、広報活動、ダム見学

1. はじめに

2013年度は、ダムが完成した事を契機に注目度が高いことが想定され、広報活動のチャンスと捉えていた。

同年11月に開催された「なんよう祭」におけるダム見学イベントにおいては94%にのぼる「満足」の声をいただいた(表1-1)。広報に工夫を重ねたことも要因のひとつとしてあげられるのではないかな。

表1-1 アンケート結果



2. 大滝ダムの概要

大滝ダムは、伊勢湾台風(1959年)により紀の川沿川が甚大な被害を受けたことを契機として奈良県吉野郡川上村に計画・建設された多目的ダムである。その目的は、①紀の川下流の洪水調節 ②水道用水・工業用水の安定的な供給 ③発電 ④流水の正常な機能の維持 である。

2013年3月23日に、多数の来賓やダム建設に協力いただいた地域のみならず、事業関係者もご出席いただき、約600名のご臨席のもと竣工式を行い、2013年3月31日に完成したところである。



写真1 昭和36年9月吉野郡吉野町上市地区

3. 『ダム建設』から『ダム管理』へ

ダムの完成に合わせて『ダム建設を理解していただくこと』から『ダム管理を理解いただくこと』に広報を転換する必要があった。

建設中の広報では、パビリオン「学べる建設ステーション」を中心にタワーブリッジ、稲妻階段、体感道路を設置し、パビリオンでは、伊勢湾台風襲来時に川上村内において観測された1時間あたり118mmの豪雨などを体験できる豪雨体験室をはじめ、建設工事について学べる教材を展示してきた。

管理における広報においては、既存施設を有効利用し『ダムの管理、役割、防災』を理解いただく広報を展開することとした。ダムに親しみを持っていただく事を足がかりとし、目的を達するためにダム完成に合わせて様々な工夫を行った。

1) 工夫① (学べる防災ステーションへの更新)

建設ステーションは、『学べる防災ステーション』と名称を変更し、豪雨体験、ダムの役割を中心とした防災に関する校外学習の場として提供することとした。

2) 工夫② (誘導看板の整備)

違和感なく「ついで」に心が和む空間づくりを着眼点に、人を呼び込み、一人で自由に散策しても見てほしいビューポイントを案内する看板配置となるよう工夫した。

ダムをより詳しく知りたい方への工夫として、設備機能や特徴について具体的な情報を提供することとした。

3) 工夫③ (ダム湖命名)

「地域に、未来に、地図に残る「なまえ」を考えてみませんか？」と題し、ダム湖名を広く募集することとした。HP、奈良県、和歌山県内の流域市町村などに加え、近畿日本鉄道の主要な駅に、募集チラシを配布した。その結果、208件の応募があった。

それらを有識者・関係者8名で構成した「大滝ダム湖名選定委員会」において審査していただいた。地域を特定しやすい「大滝」と、地域の人びととの永く変わらぬ源流吉野川への畏敬の念から「龍神」から、やわらかい平仮名を使い『おおたき龍神湖』に決定した。



写真2 おおたき龍神湖



写真3 湖名碑

4) 工夫④ (ビューポイントの命名)

現地において専門用語などにこだわらずにビューポイントとなる場所を確認し、名前をつけた。(図3-1)

イ) 「ダムの中みち」

大滝ダムは、クレストゲートに油圧式シリンダーを採用したことから、天端のすっきりした外観とそこからの眺望も特徴のひとつである。これが伝わるイメージを名前としてつけることとした。ダム上部、広いイメージから「空」をいれることとした。通路は、やわらかいイメージのひらがなで「みち」とした。また、「ダム」というダイレクトな言い回しを組み合わせ「ダムの中みち」と決定した。

ロ) 「ダムの中みち」

外部監査廊については、天端のダムの「空みち」と対比となる表現とした。一般の方には、ダムの中に入った感覚を持っていただきたいという思いから、「中」とし「ダムの中みち」と決定した。

ハ) 「ダイナミック広場」

減勢工広場については、ダムの直下にあることから、大きさを体感できる、放流の際には音が間近に聞けるなど五感で感じ、ダムの力強さをイメージし「ダイナミック」をいれ「ダイナミック広場」と決定した。

ニ) 「クロベノエキ」

大滝ダムの打設用ケーブルクレーンは、黒部ダム建設で使ったクレーンを改造し転用されたものがある。その一部をモニュメントとし、黒部ダムはダム高が日本で一番高いことなどの理由から、「クロベ」をいれることとした。また、ケーブルのレールが残っていることから、電車

を連想し、二つのダムを繋ぐイメージとして「エキ」として、二つの言葉から、「クロベノエキ」と決定した。

5) ダムの中みちの開放

可能な限りでダムに来られた方が自由に入れる区域を拡大し、触れていただくこととした。そのため、ダムの中みちの一部を開放(防災ステーション開館時)することとした。

ダムの中みちでは、堤体のコンクリート壁面を利用し、防災、ダム情報などテーマ毎に内容変更が容易な伝言ボードを整備し、常に新しい情報を発信できるよう工夫した。



写真4 ダムの中みち



写真5 伝言ボード

4. 2013年度森と湖に親しむ旬間イベント²⁾

1) 実施概要

2013年7月28日(日曜日)にイベントを開催した。午前(ダム管理者)151名、午後(川上村共催)41名のイベント参加者があった。普段は入る事ができないコンジットゲート室、ダイナミック広場をツアー形式で案内した。

2) 本イベントに向けた工夫

イ) 普段入ることのできない場所の案内

ダムや周辺を案内・説明するだけでなく普段は、入ることのできない場所を案内することとした。アンケートの結果、36%が案内ガイド「よかった、今後も続けてほしい」とお答えいただいた。

ロ) 記者発表のタイミング

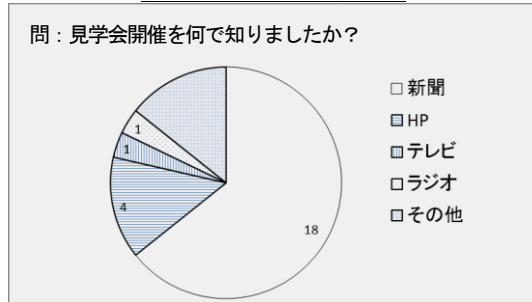
記者発表を前年度実施した「ケル大滝ダム建設ステーション探検ツアー」の新聞記事掲載時期を参考に、イベント開催4日前の水曜日に行い「この週末に、イベントを行う」という報道をしていただけるよう工夫した。

その結果、テレビ、ラジオなどで取り上げられ、特に新聞記事を読んで参加いただいた方が、アンケートの回答(表4-1)のうち64%を占めた。

図 3-1 ダムサイト周辺図



表4-1 アンケート結果(1)



ハ) 地元市町村との連携

地元川上村は大阪工業大学と連携協定を結んでいる。村と大阪工業大学後援会とのイベントに連携し、より多くの方にダムを知っていただくこととした。引き続き、他イベントと協力していくこととした。

3) 今後に向けた工夫

ガイドの説明がわかりやすさ(表4-2)について、アンケートの結果75%がよくわかったと回答いただいた。さらに、理解を深めていただくため説明に工夫をした。

イ) マイク利用の徹底

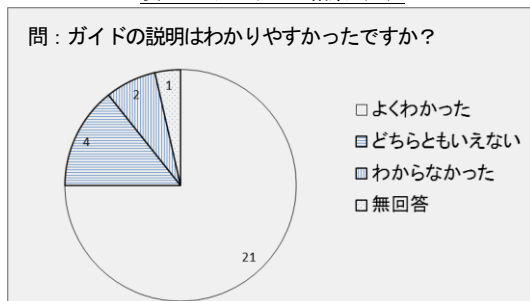
声が聞こえにくいなどの意見をいただいたため、ハンドマイクの利用の徹底を図る事とした。

ロ) 簡易パンフレットの作成

ダムの目的、施設概要など簡易パンフレットを作成し、説明を補強する事とした。

説明の全ての補強を1枚で行えるよう工夫した。内容については、必要に応じ見直しを行いV0.4となっている。

表4-2 アンケート結果(2)

5. 吉野川・紀の川源流祭まつり関連イベント³⁾

1) 実施概要

2013年9月8日(日曜日)にイベントを開催した。3回ツアーを行い合計48名の参加があった。前回イベント(2013.7.28)と同様のコース並びにツアー形式により、案内した。

2) 今後のイベントに向けた工夫

イ) 簡易ゲート模型の作製

放流するところが見たいという意見に対して、簡単なゲート模型を作成し、放流イメージを持っていただくこととした。

特徴的なゲート構造(油圧シリンダー)と一般的な構造(巻き上げ式)を示し、すっきりした景観についても合わせて説明できるようにした。

ロ) アンケートの実施

定量的、広く声いただくため、可能なかぎり職員向け研修なども含めアンケートを行うこととした。

6. なんゆう祭⁴⁾ 大滝ダムで開催

1) 実施概要

2013年11月23日(土曜日)、24日(日曜日)にイベントを開催した。普段は入れないダイナミック広場を開放し、両日とも定期的にダム説明を行った。600名を超える方の参加者があった。

2) 本イベントに向けた工夫

イ) アンケートの収集

ダムの中みちに設置しているダムカード説明伝言ボード前にて、アンケートにお答えいただいた方に、ダム管理支所において行っているダムカードの配布を行った。その結果、587件の回答いただいた。

ロ) ダイナミック広場の開放

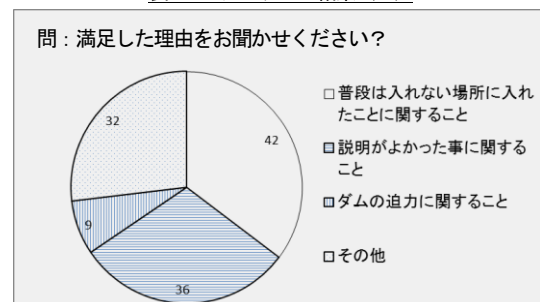
なんゆう祭は、ダムサイトに1,000名を超える来場が予測されていた。少しでも多くの方にダムを近くに感じていただくため、ダイナミック広場を開放した。開放した広場においては4回/日(合計8回)定期的にダム説明を行った。そのほか各ポイントに配置した説明者も「もてなしの心」を持って対応(説明など)を行った。

参加いただいた方の満足した理由(表6-1)の35%が、普段は入ることができない場所に入れたこと、8%がダムの迫力を感じたとお答えいただいた。

ハ) ポケット版説明のしおりの作成

参加いただいた方の満足した理由(表4-1)の30%が、説明がよかったこととお答えいただいた。その理由としては、説明者にポケットに入るサイズ(B6サイズ)の説明のしおりを配布し、説明の統一を図ったことや、イベント開催が3回目です慣れた事なども要因の一つとして考えられる。

表6-1 アンケート結果(3)



3) 今後のイベントに向けた工夫

イ) 放流模型の作製

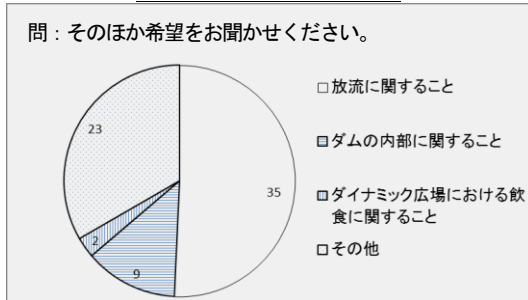
そのほかの希望として、放流に関することが50%だったことから、水を使って、想像を膨らましていただける模型を作成することとした。

ロ) ダム底部監査廊の案内

ダムの底を見たいという要望(表6-2)があったことから、ダムの底部監査廊を見学に組み込むルートを含めて、

ルート選定することとした。

表 6-2 アンケート結果 (4)



7. 大滝ダム特別見学⁵⁾

1) 実施概要

2013年12月7日(土曜日)特別見学を実施した。30名のイベント参加者があった。普段は入る事ができないコンジットゲート室、ダイナミック広場、底部監査廊をツアー形式で案内した。



写真6 放流模型を使った説明

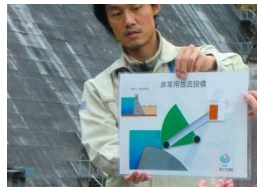


写真7 ゲート模型を使った説明

8. まとめ・今後の展開

1) 資料の更新

説明の経験を積み重ね、ポケット版説明のしおりの説明内容、ポイントを取りまとめ・更新し続ける必要がある。

2) データの蓄積

アンケートを実施により「伝わり方」の見える化ができた。そのデータの引き続き蓄積し、またイベント毎に「誰に、何を伝えたいのか」を明確に実施し有意義なものにする必要がある。

3) 結果検証及び更新

昨年度は、アンケートの結果などにより生じた課題を次回のイベントにて解決を図った。「PDCAサイクル」となり、よりよい広報となったと考えられる。引き続き、結果検証、内容更新を図っていく必要がある。

4) 広報活動の発展

ダムの中みち、クロベノエキ、防災ステーションを含めた日頃から立ち入る事のできるポイントについて、広報検証ができていない。これらの検証に加えて、他ダム・他分野の取り組みも参考にしつつ、発展・展開に努めていく必要がある。

9. さいごに・・・

ダム案内で何を伝えられたのか、何が伝わったのか。根元には「真剣に仕事に取り組んでいる姿。」があり、その姿にみなさんが「安心」を感じていた

だけたのではないかと考えています。

イベントに参加いただいた方は、僕たちを「ダムのプロ」として見ています。プロとして恥ずかしくないように日々の研鑽に努めていかなければならないし、だからこそ、マニュアルに捕らわれない自分の言葉で伝えることで相手に伝わったと思いました。

最後に大滝ダムのダムカードについて、広報します。「ちいさなパンフレット」「これを使って大滝ダムが説明できる」をコンセプトに、大滝ダムの特徴を「短い言葉で伝わる」事を意識し、作成しました。特に、僕が好きなフレーズを紹介します。

【カスケード⁶⁾の7つの小窓からこぼれ落ちる洪水は美しい滝に変わります】

みなさまも大滝ダムまで足を運んで素敵な虹が架かったダムカードを手にとって下さい ♡

参考文献・用語

1) 「魅せる現場」

<http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/genbakengaku/>

2) 「森と湖に親しむ旬間」について

毎年7月21日から7月31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。

<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/campaign/shu/nkan/>

3) 吉野川・紀の川源流まつり2013

川上村、森と湖源流館が共催したイベント(祭り)。

4) 「なんゆう祭」について

奈良県「南」部地域は、「悠」大な山地と森林が広がる場所。古より豊富な水が「湧」き、我々に大きな恵みを与えています。先人達が伝えてくれた自然や技術、食物など、南部の「優」れたものをたくさん集め、多くの方をこの地に「誘」い、地域や人、文化を「結」ぶお祭り。

ダムサイトでは物産展、村弁当王決定戦、そまびと大会など、やまぶきホール会場では、第34回 全国豊かな海づくり大会 1年前プレイベントなどが催されました。両会場で4,950名が来客しました。

5) ダムの特別見学

JTB 西日本モニターツアー。モニターツアーは、観光庁事業の一環として、新しい観光地の魅力開発と旅行商品化のために実施された。

大滝ダム見学を組み込んだツアー名：森林と水と共存してきた吉野地域文化を学ぶ旅【吉野町・川上村モニターツアー】

6) カスケード

計画水位維持放流設備の事。大滝ダムのこだわり技術としてダムカードに記載。カスケードとは、フランス語でちいさな滝を意味する言葉である。